夕刊

磐城新聞

十二月二十四日發行

發行所 磐城新聞社

(日曜祭日翌日休刊)

天氣豫報 小名濱測候所觀測
今晩は北西の風晴時々雨模樣
明日は北西の風晴

閑語句漫筆集稿 (30)

日本美術私語

大井川幸隆

歐米に於ても、日本及び東洋美術の研究に、本家本國を出し拔く研究や鑑賞論さへ起つてゐるといふ。單に專門家許りでなく一般の美術家、殊に最近の新興藝術の作家達にとつても日本美術の傳統は充分に興味の對象になり得るのであるから、西歐の美術研究界にも伍してゆける程度の日本美術雜誌の外語版を刊行することは、ただ營利の爲らん哉の紹介本よりは一層健實であり効果的である。而もその執筆態度は世界を對象とすることになり、國內の美術批評家にも强い刺戟を與へるであらう。フランスの美術雜誌が、外語版を附けずに世界的販圖を有してゐることを想へば、外語版の美術誌は充分成立し得るものと見られる。

或る主義に言はせれば、藝術も上部構造の一つであるから、藝術として政治的經濟的な社會又は國家に支配されるものだとキメつけられる。東洋精神、日本藝術が、この無慈悲的批難から巧に逃れ得ぬ爲にも統制支配の中の美術であるよりは不羈自主の超然たる美術であらねばならない。

日本人の音樂的程度

(一九三八、九、九福島署にて)

余は音樂家でもなければ音樂の才能に富める者でもない。ピアノとか、ハモニカとかセロ、笛などを下手ながらやればやれると云ふに過ぎない。而して音樂を專門的に云爲することなどは企て及ぶ處でないが、一寸思つたことを書いてみたくなつた。

余が禁錮で福島刑務所に服罪中『愛國行進曲』が歌はれ出してゐた。街の方から、牢塀を越えて風におくられてくる行進曲のレコードを五六回聽いて大体は覺わたのであつた。間もなく『入』といふ囚人の讀く新聞に、曾て軍艦マーチを作曲した瀬戸口翁が、最後の音樂奉公の意味で『愛國行進曲』を作られたことが報せられたし、歌詞と音符を特別に貰つたから、やゝ確實には歌へるやうになつた。

今度の『愛國行進曲』よりも『軍艦マーチ』の方が男壯活潑であり、リズムもメロデーに於てもマーチの感じが漲つてゐる。然かし愛國行進曲だつて現在の日本人に歐ひこなせる程度のものとして、又ためあの歌詞の氣持ちに融合するものとして推賞出來得ると思ふ。

關節炎となりて

諸根嘉樹

「病吟」(下)

○なすこともなくて悲しみ多くしてわれの生活のいたく變りき
○職辭さんことなど思ふ日なりけり悲しみ多しあはれこの身の
○健やけき人にまじりて働かん身はかなしけれひがみごころに
○素直なるこゝろ持たんとつとむれど病みにし身には苦しかりけり

新年文藝募集

詩、歌、俳、隨筆

新年、春に因めるもの、數制限なし

(締切り十二月二十五日)

12月25日

△與謝蕪村歿(天明三) △京濱間に電信開始(明治二) △蔣介石西安脫出(昭和一一)

○

年の瀬の今日暖き往來かな　湘海

贈飯塚勝次翁　珠雲　小野務平

孝悌信忠誰比肩
奉公重義志愈堅
農桑樹立百年計
郷閭拓開茲始全

講談 (199)

隱密小天狗(おんみつこてんぐ)

中川雨之氏作　近藤鐵氏畫

口取料

仕方が無いから門番。

『では、伺つて來るから、暫らくそこに待つて居れ』

といつて、玄關脇の若侍の詰所の方へ這入つて行つた。

その時、主人の正雪は、風呂に這入つて居て、忠彌は、例の浪人たちの溜りのやうになつて居る廣間で、若い浪人たちを相手に、雜談に耽りながら、正雪の湯から上つて來るのを待つて居た。

そこへ、取次の若侍が這入つて來た。

『丸橋先生』

『何者だ――』

『女ださうです、三味線を抱へた門付の女ださうです』

『なにッ、門付の女?』

忠彌は、不審らしく、太い眉を八の字に寄せて考へた。居合した浪人たちも、皆、不思議さうな視線を、忠彌の面に注いだ。

『お心當りはございませんか?』

取次の若侍が、忠彌の顏色を覗ひながら訊くと、

『馬鹿！そんな奴に心當りがあつて堪まるもの』

と吐き出すやうに、忠彌は言つた。それから程なく別客間へ通されたお仙は、忠彌と二人きり差向ひになつて、いま一通り、初對面の挨拶の畢つたところであつた。

『お仙殿と云はれたのう――、忠彌は頓と覺えはないが――』

と、忠彌は、不思議さうに凄味のあるお仙の美貌に視入つた。

『あたしも、お目に懸るのは、初めてですわ。でも先生のお名前は能く存じて居りました』

お仙は、ちよつと辭儀をして、茶碗を取り上げてお茶を飲んだ。その樣子がちやんと作法に叶つて居て、普通の門付女などには到底見ることのできない淑かさである。

忠彌は、ちよつと小首を傾けさせられた。

『で、拙者への用事といふのは――?』

『先生!』

といつて、お仙は心もち膝頭を乘り出して、警戒するやうに、あたりを眺め廻した。

『あたし、頂きたい物がございますの』

『頂きたい物――、何が欲しいのだ』

お仙は、美しい唇を少し歪めて、微笑を籠めた眼で下からヂツト忠彌を視上げて。

『口止料が頂きたいのですわ!!』

『なにッ、口止料?』

忠彌は、思はずクワツと眼をみはつた。

優しい撫肩のお仙の姿は、ぢつとして微塵も動きもしない。

忠彌は、お仙を睨んだまゝ、暫らく無言を續けた。しかしいくら考へても、此女に就いて、何らの記憶も起きて來ない。まして、口止料などを強請まれる覺はに至つては、更に心當りは無いのである。

お仙は急に笑ひ出した。右の手の甲を口に當てゝ、その手の下から、澄んだ笑ひ聲をこぼした。

『ほゝゝゝゝゝ、なんですねえ先生、そんな苦虫を潰したやうな顏をしてさ――今更口止料なんぞ強請まれる覺えは無いなんて、そんな野暮は仰有らないでせうね、それとも、理由を言へと仰有るの、だつて、理由は斷々でございますぞ、開き直つて、野暮な台詞を列べるやうな、そんな役廻りは、あたいだつて氣が進まないから、御免蒙つて、何淡泊りお願ひしたひものだねえ』

廣告

酒トマヅイ おでんの 榮ちゃん
平市田町花ノ里 電話三三三番

おでん たつた揚 やきごり
一平
電話二六三番

和洋 建具 家具 椅子 テーブル
其他裝飾品一般……
御用命は迅速に御努め致します。

諸官衙 各學校 御用達 製作販賣
㊈ 片寄製作店
平市五丁目四 片寄小彌太 電話四八四番
十五、六歲見習職工 職工募集

磐城の御みやげ品
名物 靈峰(みやま)羊かん(名產柿煉)
姉妹品
磐城耶馬溪……美山羊羹
同 七濱……のり羊羹
同 豐間……辨天羊羹
◎各種 一本 十錢
製造發賣元 平屋賣店 小川郷驛前

外科、內臟外科
エツキス光線科
新設 產婦人科
院長 安齋徹
醫學士 黑澤廣
入院隨意
平市田町 安齋醫院 電話四七五番

精神病科 腦脊髓病科 神經病科
內務省指定
福島縣立代用精神病院
郡山腦病院
郡山驛より約三十丁 安積中學より約五丁
郡山市外大槻村針生 電話九二五番
院長 醫學士 金森五郎
入院隨時

旅舍 大幸館
電話下谷(83)六七七番
東京上野驛前 (下谷郵便局横通角)
私は平市出身ですから特に郷里の皆樣方の爲めに御便宜を圖ります
主人 比佐棟雄

初冬の――小瀧は招く
一日の淸遊には………
どうぞ小瀧へ!
鐵道指定旅館 割烹 小瀧
電話小名濱一〇三

高久病院
平市田町(電話五三一番)
內科 小兒科
外科 花柳病科
耳鼻咽喉科
醫學士 高久忠
新潟醫學士 赤羽淸
藥劑士 佐竹雄
(看護婦至急募集)

耳鼻咽喉科專門
醫學士 鈴木正男
平市田町(電話五八番) 藤田女學校前
「入院のお需めに應ず」
(看護婦及び見習看護婦募集)

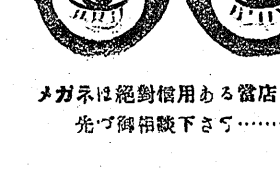
齒科 口腔外科
日本齒科醫學士 鈴木醫致
鈴木醫院
內郷村高坂 磐炭病院前

おでん、やき鳥
小鳥燒も初めました。
お酒のあとに おけさめし
おでん 茶めし 酒の家 味鄉
平市三田小路(三丁目裏)

國民精神總動員……
日本國民・必見の書……
內閣情報部發行
寫眞週報
(1部10セン)
…お取次致して居ります…
(平2) 西村藥局 (電3)

一般貨物運搬
迅速低廉に御取扱ひ致します、
福好工業合資會社
代表者 强口唯七郎
自動車部 電話二八二番
砂利、砂の御用命に對しては特に廉價にて御供給致します、

ダイナモ
バツテリー
四氣筒六氣筒
マグネツト
礦山用エンヂン
久野電機
平市紺屋町五三
電話 七二一番
振替東京一五、一〇四番

メガネ專門の店

メガネは絕對信用ある當店に先づ御相談下さい…………
平市本町二丁目 玉屋

吉田眼科醫院
醫學士 吉田久雄
平市紺屋町 電話六八番

劇に迄仕組まれた 日大生殺し事件大團圓

父親寛の上告棄却 無期懲役確定

父が江名町・母が好間村生れ、そして事件の中心となつた件が"金と戀"と云ふ百%の地方色から曾ては刑に殺き廻りの與行者によつて劇に迄仕組まれて、土地つ子の獵奇を極度に唆り立てた日大生殺し、即ち保險金六萬六千餘圓を詐取しやうと實子の貢を慘殺した醫師徳田寛(五四)にかかる殺人同未遂並に詐欺事件上告審は大審院三宅裁判長係り下審理中廿三日午前十一時半上告を棄却の判決あり原判決無期懲役が確定し茲に「子は可愛いもの」が通念となつて居る社會を飛耳張目せしめた大事件は覺にその大團圓を告げた

なほ共犯の同人妻はま(四八)は懲役十五年、娘榮子(三五)は懲役四年の各二審判決に服罪してゐる。

される地方出身名譽の戰死者左の如し

△市內上平窪曹長草野幸△山田村上等兵秋幹雄△內鄕村同三富竹造△勿來町同大友定一△下小川村同植野長重

地下試掘問題持越し

昨報、杉野周吉氏出願の平市地下試掘問題は昨二十三日の委員會で協議したが結論に達せず來る市會に提出されずに明年へ持越されることになつた

紹介所陣容强化

新時代への對應策に 所員も一躍倍加

國營平職業紹介所は現在立澤所長以下十名の所員によつて厚生省立案の資料調査を始め軍需景氣に躍る各方面工場會社の求人斡旋等に馬力をかけてゐるが目下市役所構內に建築中の新廳舍も大体來春一月中旬頃竣功するので、これより更に活潑な活動に入るべく所員も二十名乃至二十三名に倍加し、愈よ確乎たる陣容が整ふことになつてゐる、立澤所長談

――國營移管と共に機構が一變して地方の一般求人、職並に小學兒童の斡旋等に從來に比し一段と强化された外主務省立案の資料調査とか時局柄除隊兵の斡旋に一層の努力を傾けるなどつまり國策に沿ふ基本的職務化したわけである

歲末風景

救世軍でも慈善鍋

方面週間既に五日 救貧への運動高潮

市內方面委員による軍人遺家族を慰問し貧困者を救濟する歲末强調週間に入つて既に五日、二十二日に次いでけふ二十四日の同情袋募集は市內を二班に主として東部方面へ、又市軍事援護會の遺家族慰問はこれ亦市內を數班に分けて夫々出動、明二十五日は午前十時方面委員が參列の下に縣社で武運祈願祭が行はれ週間最終日の二

十六日更に舊平窪方面の同情金を募集 これが歲末の極貧者救護資金となるのである。救世軍平小隊でも一昨二十三日から例の如く驛前、銀行四ツ辻の二ヶ所に『慈善鍋』を設けて街行く人々の溫情に訴へてゐる―殘すところ僅かに數日、人馬、車の行き交ふ街々に『歲末色』は愈よ濃い

戰死者慰靈祭

二十七日原隊で合同慰靈祭に附

漁船十一隻沈沒(坐礁一 大破八)

今曉小名濱に激浪襲ふ

小名濱沿岸は昨夜來の暴風雨のため今曉三時頃に至つて激浪逆まき、折から同港內に鮨づめとなつて避難中の大小漁船八十二隻は激浪にもまれて衝突、相次ぐ沈沒船に同港では警鐘を亂打する等近來の騷ぎを演じた目下判明した沈沒船は小名濱町神風丸を頭に同町鈴代龜太郎、水野良吉、小野禮一三氏所有各二隻、田中權次郎氏一隻、植田町小濱清德丸外二隻、宮城縣鮎川町網島丸以上十一隻、殆ど鰯漁のアグリ船で漁獲物の水揚げを終へての遭難であつた、波浪は五時頃に至つて漸く平穩に歸し、平署から本田署長以下急行、地元署員、消防、青年團、水難救濟會等が督勵船体引きあげ中

この外坐礁一隻大破八隻を算した、尙この騷ぎに反し江名、中之作豐間、平潟等は激浪も見ず、平穩であつたと

漁夫一人不明

前記激浪襲來に際し茨城縣鹿島郡波崎町宮內榮太郎氏所有福榮丸乘組漁夫三浦定吉(四二)は船上で警戒中足辷らして海中に轉落行方不明、午後に至るも發見されない

平市會

平市の掉尾市會は二十六日午前十時招集

左記諸件附議

寄附採納、十三年度更正豫算、行政訴訟參加、公會堂電燈契約、電話加入權讓渡、教員及指導員慰勞金給與

現金取扱に間延長

年末三日間の平局では年末金融の繁忙期に際し公衆の利便を計る爲來る廿九日より三十一日の三日間爲替貯金、保險年金等の窓口現金受拂事務取扱時間を左記の通り延長すること

十二月二十九日=午前九時より午後五時迄

同三十日、同卅一日=午前九時より午後六時迄

市の新年祝賀會は例年以上盛大か

けふ申込みを締切る

戰捷新年を祝し且、祝賀の回禮を省かんとする市の新年祝賀新年會は既報の如く來る元旦午前十時から、新年會としては最初の公會堂に於て開催すべく、過般來全市に亘つて參加希望者を募つて居たが印刷其他準備上の都合があり今二十四日を以て締切つた。回答書整理が濟まぬと正確な數は判明せぬが、從來の例に徵し八百名內外の見當で戰捷第二の春を壽ぎ、今後の長期建設に對して國民精神を强調せんとする當日の盛儀が豫想されてゐる

燦然たる業績(下)

簡保堂々五十億圓突破

この出動軍人及び其の家族に對する特別取扱に關聯して簡易保險の利用に依り時局柄一石二鳥の効果を收めて國策に協力せんとする機運は全國各地に勃然として起つた、それは各地の銃後後援會等の活躍で町村、出征軍人、婦人團體、會社工場、商店等が主體となつて應召又は出動したる者に對して自らが簡易保險の契約者となりその保險料を負擔して一は出征家族の經濟生活の擁護に一は事變國債の消化に協力してゐることである。

×

簡易保險は去る十月一日から制度の一部が改正され保險金七百圓迄契約が出來小兒保險は滿一歲から加入出來るやうになつた。此の改正は將來の加速度的躍進に伴ひ國民多年の要望を滿したものであることは、改正後の業績の上に着々と示されて居り現に本年十月中だけでも前年同月に比し其の契約數が成人保險は八割小兒保險は三十八割も多く增加してゐる。

從つて簡易保險の重要性とその將來の發展は、この事實によつても容易に想像し得る所であつて、今後長期建設の永い過程を踏まねばならぬ我國としては本事業のより大なる躍進を望まざるを得ないのである。

簡易保險 保險金 50億円に躍進。

。。。。。。

牛の結核豫防檢査 郡市通乳用牛、外國種牛、雜種々牡牛の結核豫防檢査日割左の如し

一月二十五、六日勿來、二十六、七日錦 二十七八日植田 二十八、九日湯本 二十九、三十日小名濱 三十、三十一日豐間 三十一、二月一日高久 一、二日草野 二、三日、四倉 三、四、五日內鄕 五、六日好間 六、九日平

。。。。。。

神職講習會 明春三月郡下で開かれる筈であつた雙三郡神職講習會は都合で雙葉郡幾世橋村初發神社々務所に開く

季節に珍らしい大雨

今曉迄に坪當り實に一石四升餘 當分天候は續く模樣

久し振りで悉皆大地を潤した二十二日の雨に引續きた矢繼早やな昨夜來の大降り、人は咽喉具合倍々良く野のものすべて一層の生色を增した。而も早朝來の天候回復に氣溫も頓に上昇しストーブも要らず師走とは思はれぬ位宛然春の樣な暖かさである。大氣、濕度、これで充分だし、之に儘晴天が續けば申し分ない節季であるが――果してどうか?小名濱測候所に天公の動向を訊く。

昨二十三日朝黃海北部に在つた弱い低氣壓が午後六時頃には七五〇ミリに發達して日本西部に進行し更に夜半七四六ミリに下つて日本海中部(能登沖附近)を通過し爲め當方面も局部的に影響を被り午前一時から三時には風速一八ミリ三を示し港內繫留の漁船に別項の樣な被害があつた。雨量は昨日の午前十時から坪當り五七ミリ(一石四升三合一勺)季節に珍らしい大雨で、今後不連續線の襲頭によつて小さい時雨があるかも知れぬが大體晴、北西の風となつて天候は續きさうに想へる。この事下である

鬪病のジプシー

何とかして貰ふ迄は。ごけふ市役所前で持久戰

北から移動し來つて途中の旅費をねだる、うらぶれの季節勞働者は、以前の職業紹介所にとつて何よりの手餘しものであつたが軍需景氣に躍る昨今の勞働市場にそうした階級が悉的消化され、此種の惱みが解消した今日に於て今尙ほ舊態依然たるは、例の天刑病者が忘れた頃に現れては當面の藥代を哀願する事で市の社會課でも之にはほと\/手を燒き作らも何處からか辿り着いて市役所前に形影悲落の身を橫たへた之等の連中から絕え入る樣な悲鳴を擧げられては、遂い見て見ぬ振りも出來ず應分の惠みを垂れて何處かへ去らせると云ふ事になるのだが、けふも朝來斯うした虐げられた若い三名のジプシイが、陽射し暖かい構內の池畔に蹲くまり、無言の儘梃でも動きさうも無く何とかして貰ふ迄は、と傷ましい鬪病の持久戰を張り、役所に出入する人達の心を暗くさせてゐた

歲末警戒の獲物色々

二十二日午前一時頃內鄕村磐城炭礦綴合宿に侵入坑夫水山稻夫氏外三名の現金百餘圓と衣類を盜んだ犯人の屆出に接した同村菊池駐在巡査は本署に急報する一方磐炭勞務係員と協力、犯人のあとを追つて湯本町へ自動車を飛ばし事件發生以來僅か三時間で同四時頃三函駐在所前で逮捕、犯人は富山縣婦負郡藏垣村生れ前科五犯川西芳次郎(三四)と追究の結果北海道室蘭市知利別町七木飯場方で同僚から預つた百餘圓と衣類を橫領したことを自白

○

宮城縣登米郡米山村生れ鑛職伊藤次郎(三五)は內鄕村綴赤木飯場頭赤木賢太郎から二十圓を詐取逃走途中二十三日夜平市內松ケ岡公園で永田刑事檢擧

○

雙葉郡大堀村生れ某(一五)は去る十七日夜同村小學校へ侵入訓導三瓶トミさんのクローム腕時計(八圓)を盜んだのを手始めに浪江町役場から現金三圓、市內二丁目地內で才槌小路松本好男の自轉車一台を窃取野地刑事逮捕

磐炭便り

磐城炭礦住吉坑從業員より成る敬神會では二十五日午前八時から山神社で年末大祓式 炎害豫防祈願祭執行◇同坑私設消防隊では十五日より夜警

。。。。。。

林道改修に補助 林道災害復舊工事を地元で施行の場合縣では工事費の半額を補助することとなり目下申請を受付けてゐる、尙此種工事に對しては十四年度も同樣補助する見込みであること

必要な次の諸項を銃後の皆樣に望む

元磐女教諭 鈴木少尉(通信)(三)

陣中を聽く ……(504)……

僅か一ヶ年半の中の生活だつたが赴任した最初の土地だけに第二の故郷として深く\/印象付けられてゐます、出征に際して平市各種團體を始め市民各位の心からなる壯行に衷心より感謝してをります、困苦欠乏に堪へてゐる私の力の源泉は平市民の團結であります、その表徵たる人の波、旗の嵐、歡呼の聲がそれであります。

一つの戰鬪が終ると若干の戰死傷者を始め平病患者が出ます、內地で白衣の勇士を慰める事もさる事作ら第一線附近のかゝる勇士の收容に今少し關心を持ち助力が望ましくさへ感じました、麥と兵隊、土と兵隊、イモと兵隊と云ふが百聞は一見にしかずの感を深くしてある』新聞紙などもか『實情を訴へて銃後の刺戟たしたいと思つてゐます

氣候 風土、飲料水の變化はマラリヤ病となり赤痢を起し、急性胃腸炎、脚氣等を發生してゐます。暑去、寒さに向ひ現在は非常に減少してゐます、新年を前にして、將兵の意氣愈々旺盛にして第五次作戰に向ふに張切つた意氣を示し頼母しき限りです、我が陣地當面の敵も今や一日と退却の兆候が示されてゐます。

私がこの際体育的見地から戰鬪の一部分を觀察するならば銃後の女性に對し否、一般國民に對して次の力の必要なるを痛感します。

1『武裝して彈丸雨飛の中を山に登、而して餘力を以て銃劍を撫し、突擊出來る力が欲しい』山又山の山嶽において一日に二倍位いの充分なる食糧の上に夜を日につぐ追擊戰で疲勞した勇士が山をいかへ、しかも堅固なる陣地を占領してゐる支那軍の射擊の中を攻擊する事を考へる時この感を深くします。

2『步け、大いに步け、三日位一睡もせずに强行軍し得る力を養成せよ』

3『不充分な食事に滿足し孜々として働き得る力を養へ』支那軍の如く退却戰の上手な軍隊と戰爭する時は追擊戰を豫想せねばならない、敵を殲滅せしめる爲には二日でも三日でも一睡もせずに强行軍をする力がなければならない、其の上重い彈藥を持ち戰鬪するだけの餘力が必要である。

× × ×

二十四日(小名濱測候所發表)

滿潮 前七、三五 後五、五五

干潮 前〇、三五 後一二、五〇

簡易な金融 蓄へ無盡 磐城無盡 貯蓄ノ趣味 出張所縣內各町

實質サービス 定評ある大塚の靴……特賣 牛革手持ち品豐富に有ります 男女學生靴 紳士靴 小供靴 優秀品安賣 ◆月星運動靴、ゴム靴、ズック靴豐富に有ります 平市田町銀座通り 大塚へ 電話七十七番

看護婦至急募集 (委細面談) 高柳醫院

大和田醫院

十九日 滿潮 前八、一〇 後六、三五 干潮 前一、〇五 後一、三〇

新十二月廿五日 日曜 辛卯 友引 平 箕宿 舊十一月四日

▲一白 苦勞にも引拔かる日何事にも隱忍が大切▲二黑 入りて吉くして、も亦吉き幸福なる日なり▲三碧 けんそんならざれば信用を失ひて獨りよがりになるべし▲四綠 福德來集の幸運日にて何事も進んで吉し▲五黃 奮鬪するときは自己の手腕を發揮するを得▲六白 込み入りたる事を生じ思ふ樣に行かざる日▲七赤 辛抱あらざる時は積日の效を捨つるに至る▲八白 運氣頂上に達する吉日にて何事も進むべし▲九紫 努力次第にて如何なる難關も突破し得らる

新十二月廿六日 月曜 壬辰 先負 定 畢宿 舊十一月五日

▲一白 ほこりおごりをいましめ他に手を出さず守るべし▲二黑 一日の不安な祈り除せに手出しすべからず▲三碧 勇氣を落さず進むに專一なれば好結果あり▲四綠 外仕事は苦しみ多けれど內には利得ある日▲五黃 此と云ふ害はなくとも心事々しく感ずる日▲六白 運氣頂點に達する日但し油斷なきやう注意▲七赤 外に向つて十分に手腕をのばすに良き日なり▲八白 妄動して不利を招くよりも安息するが無事▲九紫 幸運なる日にして求めの利得まで入込むべし